

目的 前報で、台湾の佛教法衣は、佛教と道教の混交が自然に行なわれていることを報告した。では多民族複合国家の佛教法衣は如何なるものか、シンガポールの佛教法衣について報告する。

方法 シンガポールは 道教 佛教 イスラム教 キリスト教 ヒンズー教等の多宗教の国家であり 中国系、マレー系、インド系 其他の人達が各自の宗教を持っている。この場合の宗教法衣は如何なるものかについて現地で調査した。又 現地で佛教法衣を求め その構成、縫製 等について調べた。

結果 宗教法衣は、それぞれの教義や信念によって、型式 着装を規制し、伝承し、權威つけるものであるため、各宗教独自の宗教衣を守っている。

佛教法衣の場合には、中国佛教圏に属しているため、香港 台湾 等と殆ど同じである。

色彩は、南方佛教法衣の黄色、オレンジ系黄色 及び黒が用いられている。

素材は、極薄地の木綿(ネンスーク地)が主で其他化学纖維のものもあった。

形態は、素材が薄いためか、佛教衣の特徴である割^{カッ}截^{ゼツ}が省かれているものもあり 又復肩衣を用いることもある。気候風土が南方佛教圏に近いためであろう。

他宗教の影響は殆ど認められず、宗教の独自性が守られていることがわかった。